

ねらい 2つのものの集まりを数図ブロックで1対1対応させ、数の多少を判断する方法を考える。

ポイントと幼児期とのつながり

子ども達は、保育の中で、帽子の数を数えたり、チームの人数を合わせたり、自然に物の数量を捉えるようになってきている。本時は、教科書の挿絵であらわされた2つのものの集まりの多少を調べる学習である。授業の導入段階において、子どもたちが学習のめあてを意識できるように、吹き出しの形をした「おはなしかあど」を使用し、2人組で自由に話をする時間を設けた。子どもたちは、これまでの経験を生かし、バケツやジョウロの数を数えたりしている。前時は挿絵を線で結び、1対1対応することで数の多少を調べたが、挿絵を数図ブロックに置き換えて並べ直すことで、数の多少が一目でわかることに気付けるようにした。



取った赤帽の数を数える園児



実践内容

①どんな問題かな

お花に水をあげよう。



吹き出しカードを使い、2人組で自由に会話をしながら、挿絵の世界に入っていく。

ジョウロを1にもっていこう。

②自分で考えよう



挿絵から考えたり、数図ブロックを使ったり自分なりの方法で数の多少を調べる。

バケツに青の数図ブロックを置いて…



③みんなで話し合おう



数図ブロックを並べてみよう。

並べ方や多少を調べた結果について話し合う。

うさぎは、青のブロックね

④ふりかえろう



にんじんとうさぎの数をブロックにすると、にんじんが1本多いです。



数図ブロックで表すと一目で多少が調べられることを確かめる。

授業を振り返って

数図ブロックで表すと一目で多少が比べられることに加え、吹き出しカードを使うことによって、挿絵を基にした自由な発想が膨らみ、子どもたちの会話を引き出すきっかけとなった。今後も2人組での話し合いを中心に、思いや考えを伝え合うことを大切にしながら、発表への意欲へつなげ、友達との考えの相違に気づく中で、自分の考えを広げる機会にしたいと考える。